

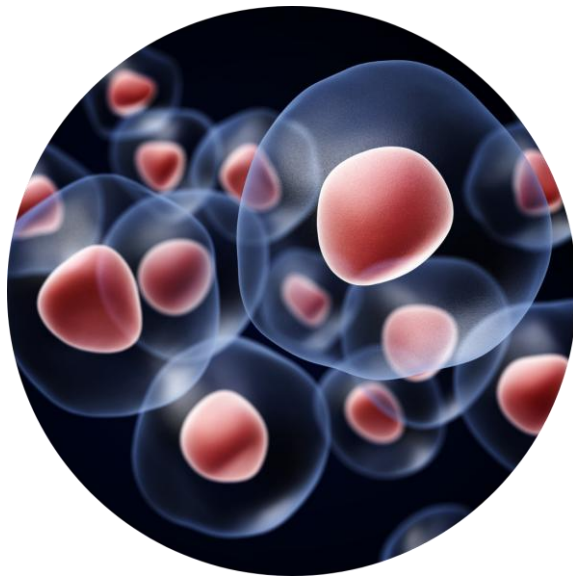
ノーベル賞が示した免疫の新常識

—制御性T細胞と酪酸がつくる“炎症のない体”



今回のノーベル賞が
“免疫のブレーキ＝制御性T細胞” に注目しています。

制御性T細胞は
免疫の暴走(炎症)を止める**唯一のブレーキ**です。



2025年10月6日 報道

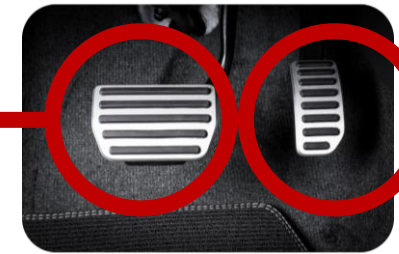
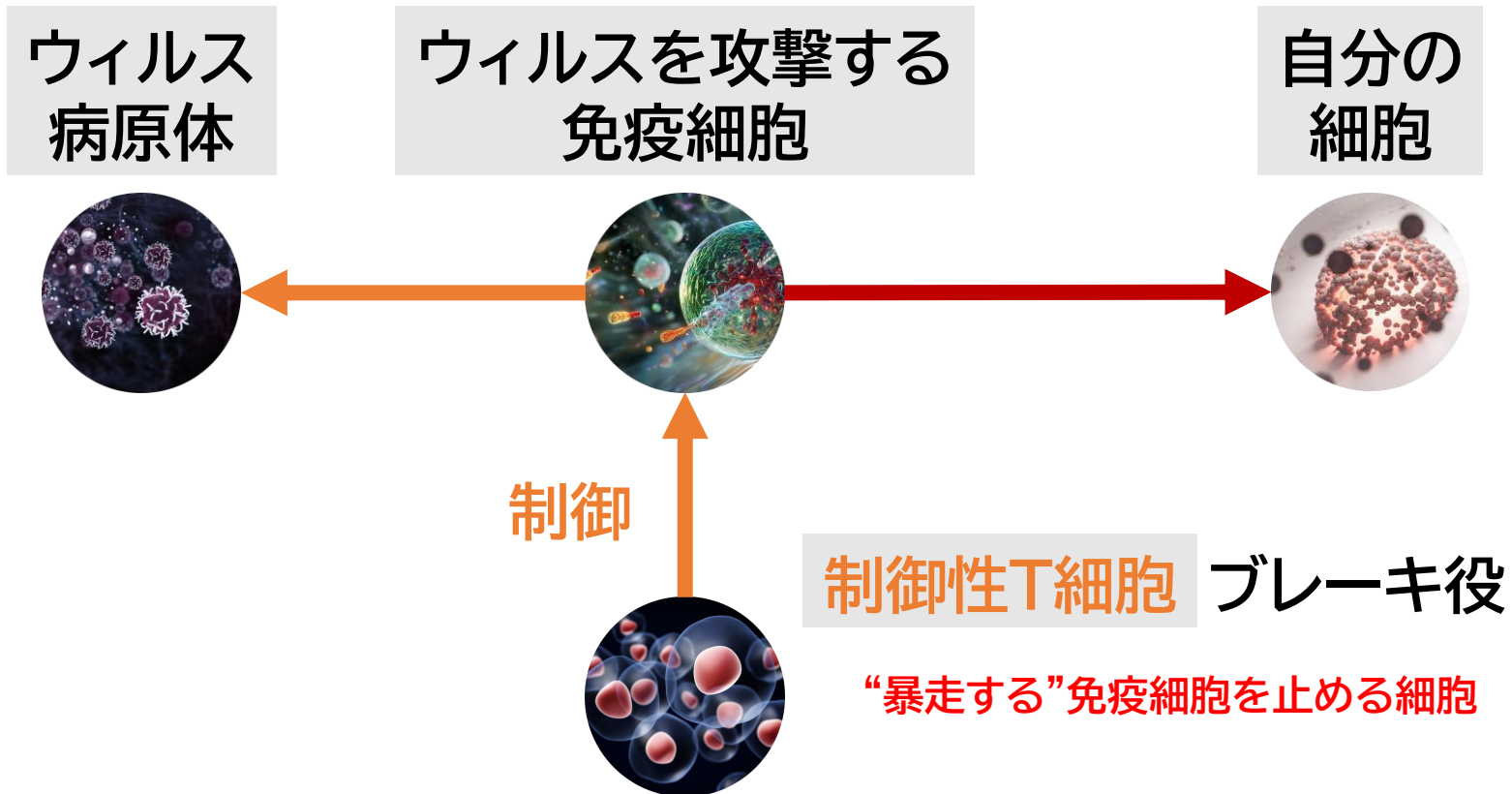


坂口 志文
大阪大学栄誉教授 / 京都大学名誉教授
免疫学フロンティア研究センター特任教授

2025年12月10日 授賞式

酪酸は“免疫ブレーキ”を動かす燃料

酪酸が不足すると、
免疫ブレーキが効かず、炎症は暴走します。



ブレーキ
免疫
制御

アクセル
ウィルス
攻撃

あなたの不調、その“正体”は炎症です

体の不調、実はすべて“ひとつの原因＝炎症”です。

頭痛

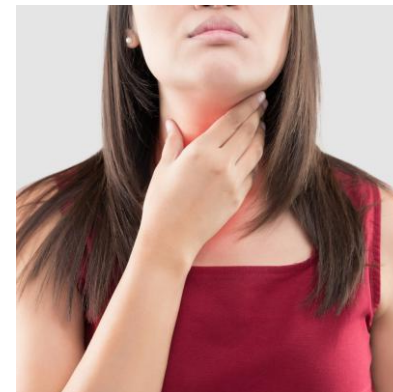
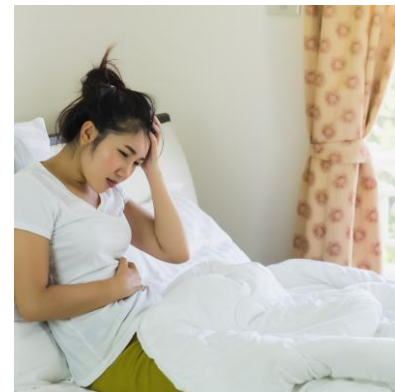
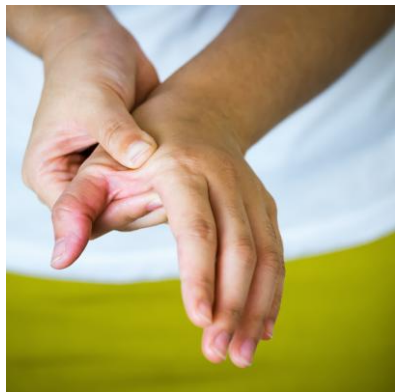
不眠

便秘

肌荒れ

アレルギー

だるさ



炎症が止まらない原因は“酪酸不足”

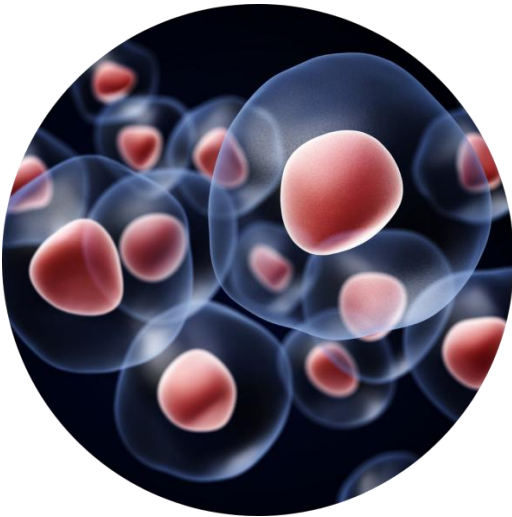
炎症が“止まらない体”は、酪酸不足によって免疫ブレーキが働かない状態です。

酪酸が担う2つの役割: 免疫ブレーキ × 粘膜バリア

酪酸が身体を根本から整える2つのポイント

ポイント①

免疫ブレーキ
(炎症を止める)



ポイント②

粘膜バリア
(炎症を起こさない体をつくる)



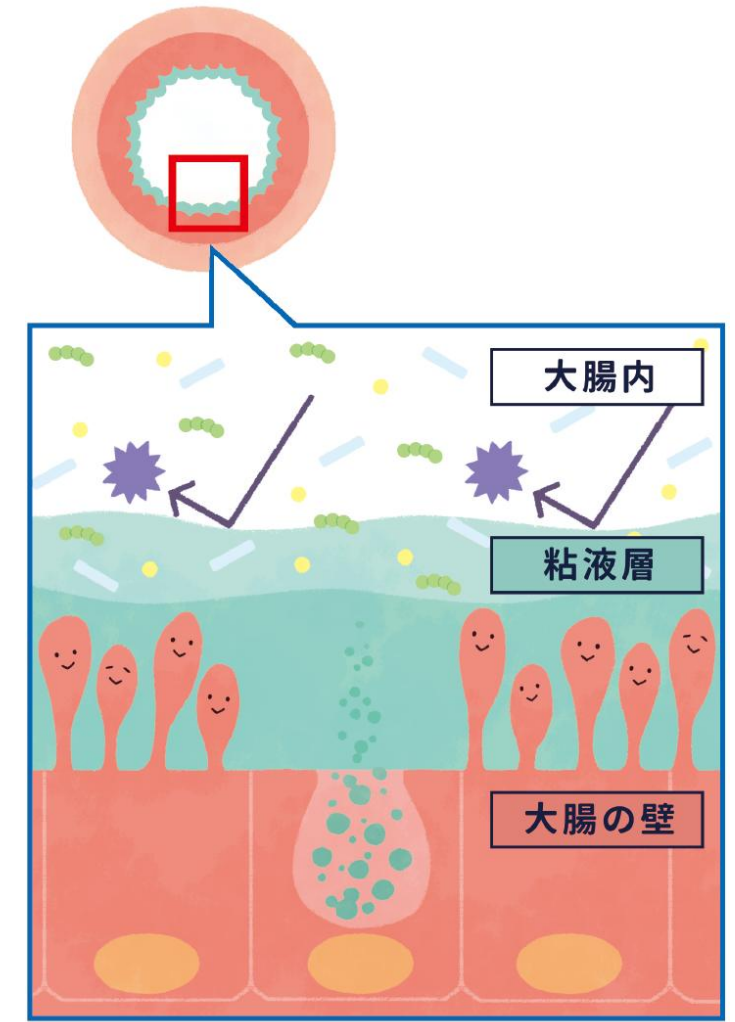
粘膜の材料の60～80%は酪酸。薄い粘膜が炎症を生む

腸の粘膜は“**体を守る城壁**”。

しかし、現代人の粘膜は薄く、
ウイルスが直接当たり**炎症を起こしやすい**状態です。

そして——
粘膜をつくる“材料”の**60～80%が酪酸**。

酪酸が十分にあることで、
粘膜は“**厚く・強く**”再生し、
炎症を起こさない体の土台が整います。



食事だけでは必要量の酪酸を作れない理由

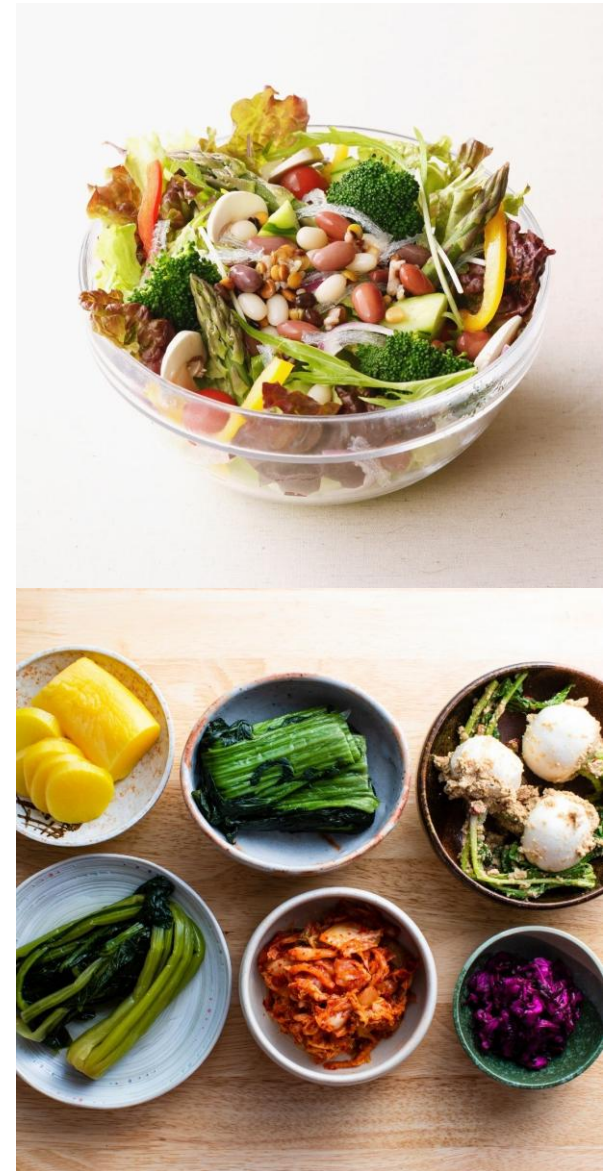
酪酸は腸内細菌(酪酸菌)がつくる物質。

食物繊維や発酵食品だけでは、
多くの人が十分な量をつくれません。

1日の必要量は食物繊維300g ※水分除く

食物繊維を食べているだけで必要量は作れません。

だからこそ、
“酪酸そのもの”を補う アプローチが注目されています。



酪酸菌では**不十分**。即効性があるのは“**酪酸そのもの**”

「酪酸菌」と「酪酸」は**全く別物**です。

- 酪酸菌は“酪酸をつくる菌”
- 定着しない人が多い
- 酪酸ができるまで時間がかかる

即効性があるのは「酪酸そのもの」。

だから——

酪酸そのものを“直接届ける”
Raqsun+ が生まれました。

